

1 研究主題

意欲を持って問題に取り組み、学び合う児童の育成

2 研究主題設定の理由

○ 社会的情勢及び教育的課題から

今日の現代社会は、新しい知識や情報化の社会、科学技術の進歩により、日々目まぐるしく、変化や発展を遂げている「知識基盤社会」の時代である。この時代の変化に、柔軟に対応して、国際社会の場で活躍したり貢献したりすることができる日本人の育成が重要な課題であると言える。学校教育においても、これからの時代を担っていく児童が、国際化の進んだ中で生き生きと生活をしていくためには、「生きる力」としての確かな学力をはぐくむことが重要であると位置付けられる。また、PISA調査等から、身に付けた知識や技能を生活や学習に活用したり、学ぶ意欲を高めたりすることが課題として挙げられる。

このような情勢のもと、算数科では「算数的活動の楽しさ」「表現する能力の育成」「活用することの重視」が新たな方向性として示されている。児童が意欲を持って課題に取り組み、児童同士が共に学び合いながら活用力を高めることのできる授業作りをしていくことが求められている。

○ 研究経過及び児童の実態から

本校では、平成27年度から研究教科を「算数科」に据えて、研究を進めている。

1年目は、研究主題を『「自ら解き明かすこと」や「共に働きかけ合うこと」をめざした算数科学習指導』とした。これは、確かな学力を育むために、自らの課題を明らかにして解決を図ったり、自他の意見や考えを結びつけたりしながら、意欲的に問題に取り組む児童を育成したいという考えからである。その結果、既習内容を生かして自力解決しようとする児童や、考えを伝えあいながら課題を解決しようとする児童が以前よりも増えてきた。

昨年度からは、佐賀県教育委員会より「活用力向上」の研究指定を受けている。本校では、前年度の研究をふまえ、「活用力」を「既習事項を用いて問題を解決する力」ととらえた。また、問題に対して、「やってみよう」「どうしてかな」など、意欲を持って取り組む児童を育成したいと考え、研究主題を「意欲を持って問題に取り組み、共に学びあう児童の育成」として研究を進めた。

全職員が研究授業に取り組み、児童に「既習事項を用いて問題を解決する力」をつけるため、問題提示の工夫や練りあいの場での指導方法などについて、授業改善を行ってきた。また、家庭学習の定着に向けて家庭への啓発をはかったり、児童がスムーズに中学校生活へ移行できるよう、中学校と学習規律の指導項目をそろえたりと、外部との連携もはかってきた。本年度も、引き続き研究に取り組むことにより、さらなる授業改善と児童のより良い変容をめざす。

○ 本校の学校教育目標から

本校では、「心と知恵と技をとぐ上峰っ子の育成」を学校教育目標に掲げ、「礼儀作法、規範意識」「学習規律、学習習慣」「心身の健康、勤労体験」等を、目指す児童像として日々の教育活動を展開している。目まぐるしく変動を繰り返す時代の中にあっても、人は、自己と所属する集団のより良い成長と発展を願い努力を続ける。今を生きるその時々思い、その時々幸せを創ろうとするものである。そのためには、「生きる力」となる知識や技能、知恵や力を身に付けさせておくことが教育の大切な責務であると考えます。

算数科では、知識や技能を身につけさせることはもちろん、それを「主体的な課題解決」と「共同的な学び」を通して、知恵や力へと高めていくことで、学校教育目標を達成することを目指してい

る。以上のことから、本校の研究主題を「意欲を持って問題に取り組み、学び合う児童の育成」と定めて、授業実践を行うこととした。

3 研究課題

- 「生きる力」としての確かな学力を育むために、「意欲を持って問題に取り組み、共に学び合う児童の育成」を目指した算数科学習指導の在り方を探る。

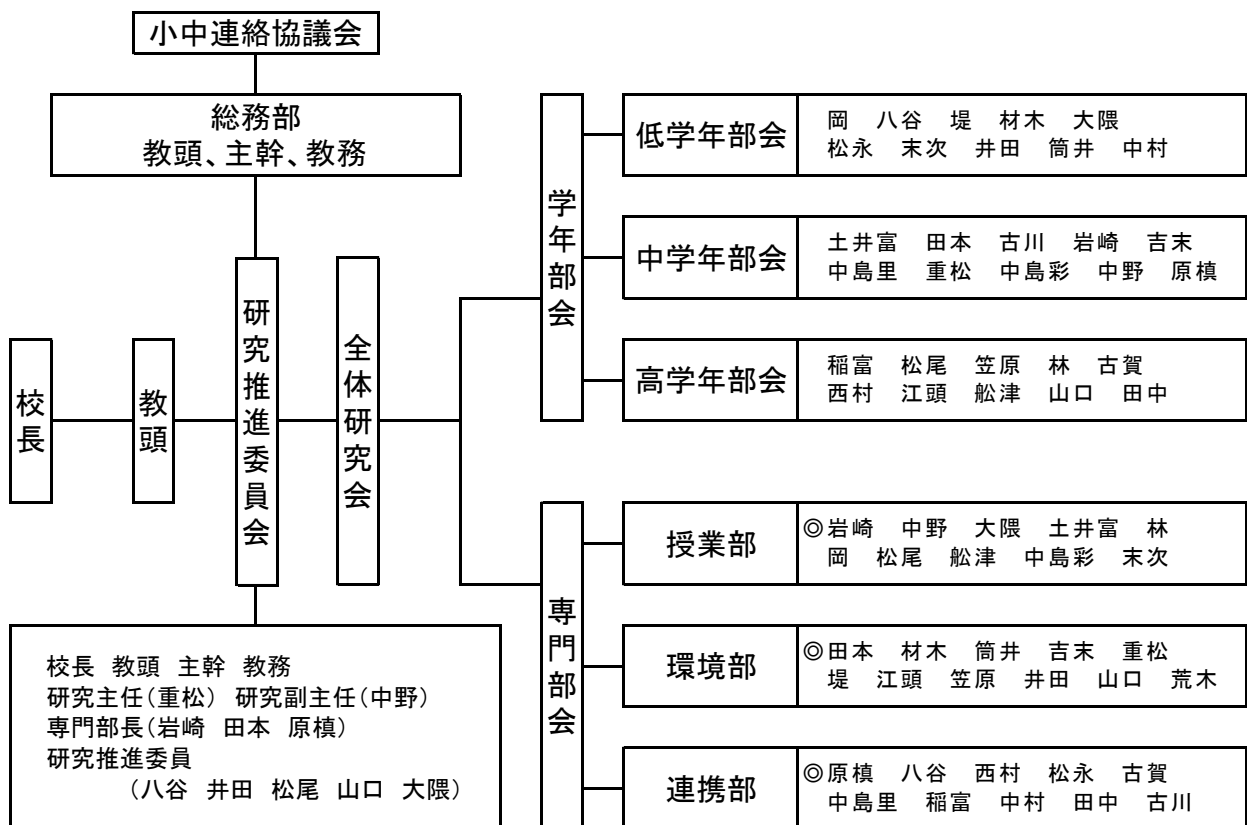
4 研究仮説

- 算数的な処理の良さを実感できるような単元過程、学習過程を考え、教材提示、発問、応答、等、様々なしかけを施していけば、既習事項を生かしながら意欲的に問題に取り組み、友達と共に学び合うことのできる児童を育てることができるであろう。

5 研究内容

授業部	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に関すること（指導案、学習過程、なるほどタイム、練り合いの方法、板書、ノート指導など）の検討、確認 ・目標設定と評価規準、評価方法の在り方を探る
環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・にこにこ学習の計画 ・学習の約束 ・学校環境の整備
連携部	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭との連携 ・中学校との連携

6 研究組織



◎は専門部長